

1-B-3.

幹線輸送におけるJR5トンコンテナの活用 (400km以上の工場-DC間) <カゴメ(株)>

1. 概要

シフトした輸送機関	トラック ⇒ 鉄道
輸送ルート	栃木、長野 → 北海道、九州
主な対象貨物	食料品、飲料
導入時期	1989年
荷姿	パレタイズ貨物
出荷頻度	ほぼ毎日

2. 背景 (実施理由、狙い、導入の経緯)

1) 実施理由

- ・ 輸送コストの低減
- ・ 環境問題への対応
- ・ 輸送ロットの見直し

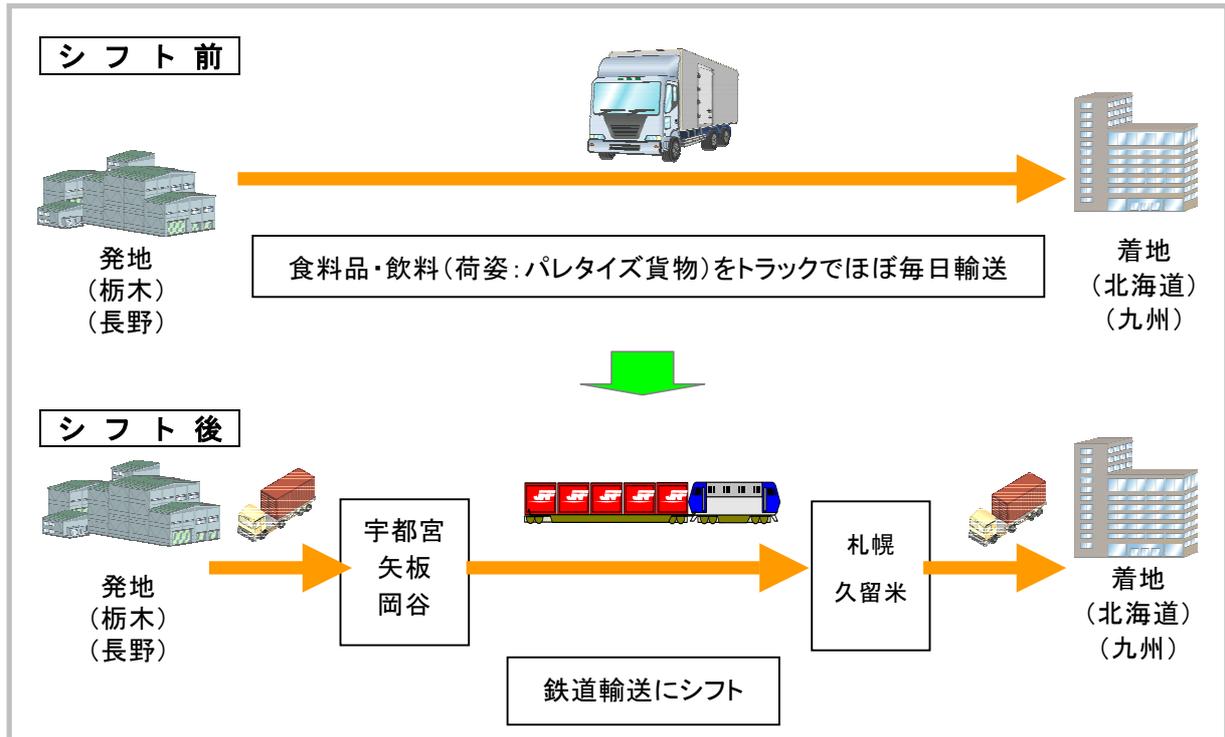
2) 狙い

- ・ 輸送費の低減、CO2排出の削減と合わせて、輸送ロットを小さくすることにより、在庫削減、滞留廃棄の削減を図った。

3. 対策効果

項目	対策効果 (実施前を100とした場合の実施後の数値: 実施後/実施前×100)
輸送コストの対策効果	90~95%
燃料使用量(又はCO2排出量)の対策効果	10トントラック 174g/tkm ↓ 5トンコンテナ 21g/tkm

4. 事業内容



5. 課題

- ・ 環境対応、モーダルシフト対応の高まりによって、JRコンテナの需要が高まり、結果として料金値上げの意向あり。
- ・ 今後、トラックとのコスト優位性がなくなってくるのでは。